第５回福山駅前広場デザインシンポジウム（概要）

日時：２０２３年（令和５年）3月20日（月）１５時００分～１７時３０分
場所：まなびの館ローズコム　大会議室
参加人数：２５人（会場），４２人（オンライン）

1　開催目的

- 市民や事業者から福山駅前広場整備基本方針（案）に対する意見を聴き取る
- 駅周辺のエリア価値を高める福山駅前広場の運営のあり方を考える

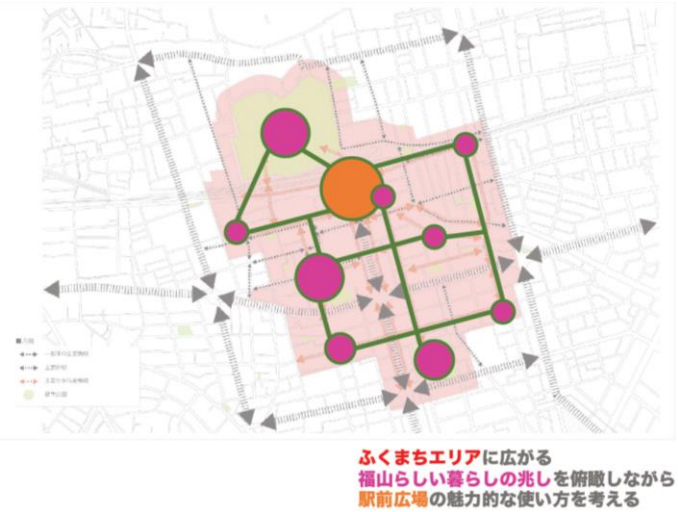
2　ガイダンス

- 福山駅前広場整備基本方針（案）について
- 駅周辺のエリア価値が高まる広場運営の仕組みづくりの必要性について
- 駅周辺の４エリア（ふくまちエリア）と駅前広場の役割を考える重要性について

ポイント

＜駅前広場の役割を考える時の視点＞

- 駅前広場の役割を考えるにときには，ふくまちエリアに点在するプロジェクトを俯瞰すること
- 各プロジェクトに個性がないと歩いて回ろうと思わないため，各プロジェクトの役割とプロジェクト同士の関わりを考えること
- プロジェクトが一つずつ積み重なることで，価値の波及が起こり，その価値が郊外にも波及する



出典：西村浩様　説明資料

3　レクチャー

ゲストスピーカー

入江 智子 さん
IRIE TOMOKO

株式会社コーミン代表取締役
NPO法人自治経営理事

1976年生まれ。兵庫県宝塚市出身。京都工芸繊維大学卒業後，大阪府大東市役所に入庁。建築技師として，学校施設や市営住宅等の営繕業務に従事する。2017年に大東公民連携まちづくり事業株式会社（現コーミン）に出向，駅前道路空間を活用した「大東ズンチャッチャ夜市」をはじめる。2018年に市役所を退職し，現職。2019年，高齢者の総合相談窓口である基幹型地域包括支援センターの運営を開始，まちづくりと健康づくり両輪の会社となる。公民連携エージェント方式で市営住宅の建て替えを行った「morineki」が2021年春にオープン，2022年「都市景観大賞」国土交通大臣賞を受賞した。

テーマ

『「まちを使う人」を元気にする駅前づくり 』

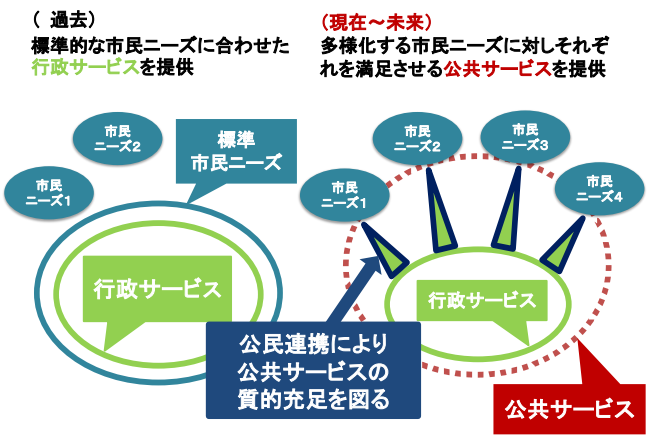
ポイント

＜公と民が連携して豊かな公共サービスを提供する＞

- 行政はこれまで標準的な市民ニーズに合わせ「行政サービス」を提供してきた。多様化する市民ニーズに対応していくために，公と民が連携する「公共サービス」の質的充足を図っていくことが必要

- 公民連携事業とは何か
  ・複数の地域経営の課題を解決する事業であること
  ・地域の価値を向上させる事業であること
  ・地域経済の発展および循環に寄与する事業であること
  ・公的負担の軽減を図ることを目的とする事業であること
  ・金融機関等から資金調達を行う等自立的かつ持続可能な事業であること

公民連携により創出されるサービス（イメージ）



上記出典：入江智子様　説明資料

ポイント

＜周辺エリアへ価値を波及させる＞

- morinekiプロジェクトは地元企業とともに市営住宅の建替えを行った公民連携事業
- 開催するイベントが地域の価値の向上に資するのか，関連企業の商売に対し調和が取れているかなどの調整をしている
- 周辺エリアにmorinekiの魅力が届いた結果，地価が去年に比べて1.25倍になったり，エリアに面していない地域の路線価も上がってきている

morinekiプロジェクト

＜行きたいと思える居場所を作る＞

- （株）コーミンは，介護保険などの相談窓口となる基幹型地域包括支援センターを担っている。地域リハビリテーションの考え方から，「morineki」の住民が地域で自立し，暮らすことを支援している
- 家以外の居場所が必要。孤立する人を作らず，活動的な生活を後押しして，良い循環に持っていくことが大事
- 居場所づくりでは虚弱な人も健康な人も混ざり合って行うことが重要。お金を払うことなく，誰でも参加できる，自分が特定される場所を歩いていける距離に作ることが，まちとまちを使う人を元気にすることにつながる

上記出典：入江智子様　説明資料

＜住民（市民）を信じて巻き込む＞

- 公民連携事業では地域に溶け込み，住民の声を信じて巻き込んでいくことが重要

ポイント

＜公共空間を使ったイベントの運営＞

- 大東市の中心に位置する住道駅前の広場で，大東ズンチャッチャ夜市というナイトマーケットを行っている。訪れる人に標準を合わせて運営を行うことで，まちは良くなっていく

- 公共空間を活用したイベントを行う際に大切にすること
  - ・空間のデザイン
    景色，店舗のドレスコード，照明，植栽など
  - ・社交性の確保
    交流を生みやすくする工夫，畳や立ち飲みスペースなど
  - ・新規顧客の開拓
    出店者のことを訪れた人に知ってもらう，出店者ファースト
  - ・訪れる人のストレスを解消する
    子連れでも訪れやすい空間をつくる
  - ・初期投資費用の見込み
    出店する店舗数×１０万円程度
  - ・出店者の審査
    良い出店者を選ぶ目利き力，出店者とのコミュニケーション
  - ・持続性
    コンパクトな体制の構築，運営本部の確実な収益の確保
  - ・ハード整備
    空間のゆとり，資材の搬入路，資材倉庫，電源，トイレ，駐車場等

上記出典：入江智子様　説明資料

4　パネルディスカッション

ファシリテーター

清水 義次 さん
SHIMIZU YOSHITSUGU

株式会社アフタヌーンソサエティ
代表取締役
福山駅前デザイン会議座長

パネリスト

西村 浩 さん
NISHIMURA HIROSHI

株式会社ワークヴィジョンズ
代表取締役
福山駅前再生アドバイザー

入江 智子 さん
IRIE TOMOKO

株式会社コーミン代表取締役
NPO法人自治経営理事

テーマ

『魅力的な駅前広場をマネジメントするのはあなた！』

ポイント

＜公と民が相互に理解し合い，公民連携事業に取り組む＞

- 行政側は市長や議会と連携が取れる，庁内に横串を通すような部局が必要。民間側には，自立経営をしている第３セクターとして機能している事業者が必要
- 行政側は民間がどうやったら投資しやすいか，融資を受けやすいか，空間を使いやすくなるかなどを考え，それに対して，規制緩和や補助金ではない適切な支援を行っていくことが大事
- 一方で，民間側は，自分達がまちのために行動しやすくなるよう，行政に何をしてもらいたいかを的確に伝えることが大事
- 民間と行政の相互の理解を促す通訳者のような人材が必要

ポイント

＜駅前広場の運営や使い方について＞

- 施設をつくれば使われるという時代は終わっている。今はただ単につくるだけでは使われない

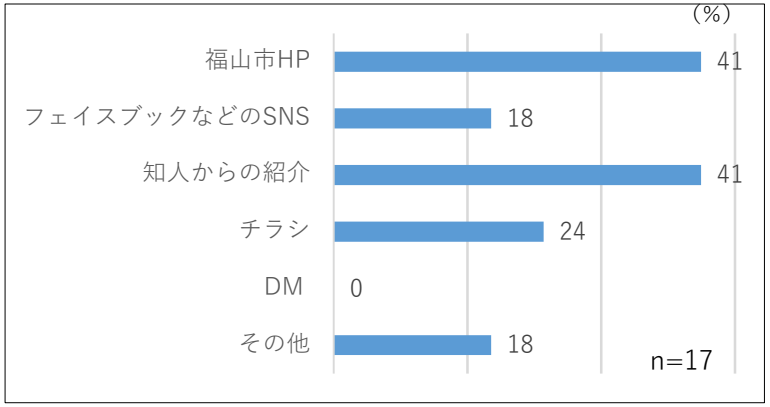
- これからは，使うことやマネジメントすることを重視して計画していかなければならない。設計をする前に使う人やマネジメントする人を見つけ，一緒に検討していくことが大切になる

- 駅前広場の沿道の店舗などが主体的に関わることで，日常的に楽しそうな風景が生まれると良いだろう。そのような状態を作り上げていくためには，自然で無理のない管理の仕方が大切になる

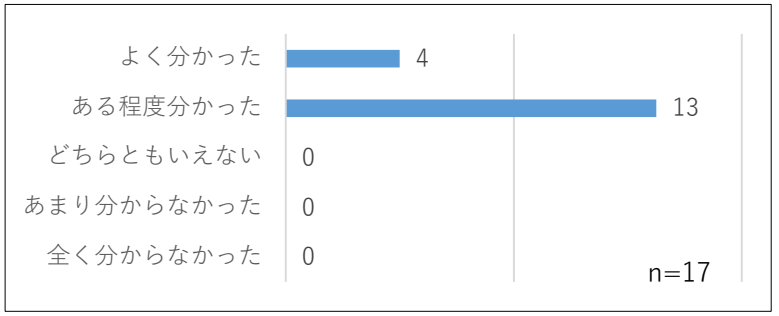
※一部，要約しています。

5　アンケート結果

Q1　どこで本シンポジウムを知りましたか。（複数回答）

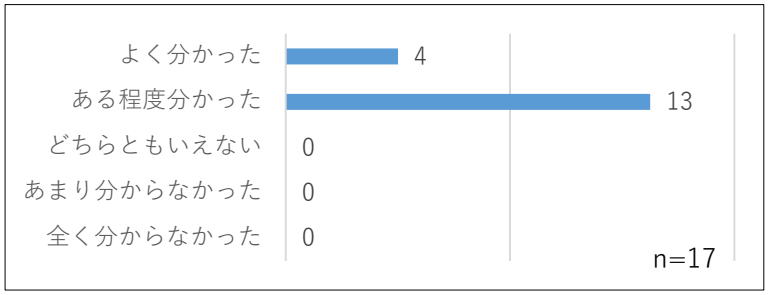


Q2　福山駅前広場整備基本方針案に示す「理念」*について



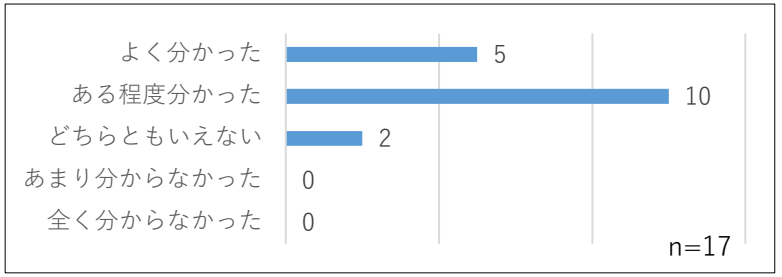
※　様々な立場の人がまちを良くする視点を持って連携し，駅前広場を交通結節機能と都市の広場機能が融合した居心地が良く歩きたくなる空間へと転換すること。再編にあたっては，利用者目線の価値を大切にして検討を進めること。

Q3　福山駅前広場整備基本方針案に示す「方針」*について



※　「あらゆる資源をつなぎ，福山らしい豊かな暮らしを実現する駅前広場」を将来像とすること。基本方針案P24に示す各機能の配置計画図を基本として基本計画の検討を行うこと。駅周辺の開発動向によっては，駅前広場を全面的な広場とする計画も視野に検討を行うこと。

Q4　これからの公共空間（道路や広場，公園など）の使い方やマネジメントの仕方について



（Q3）初めて知ったことや興味を持ったこと，感じたことなど（自由記入）

- 軒先にいる方々の合意をとることの難しさ。社会実験は誰が主体的に行うのが理想的なのか悶々としました
- 今日のお話の中でも挙がった「広場を使う人，そして広場や使う人など全体をマネジメントする人」の存在が非常に重要だと感じました
- 公共交通(列車，バス，タクシーetc)の拠点としての機能と公園(広場)としての機能を両立させるというイメージは賛同します

（Q4）興味をもったことや感じたこと，公共空間をどのように使いたいかなど（自由記入）

- 視野を駅前にしぼりすぎていて，地域間競争のように見える（福山全体のビックビジョンからブレイクスルーすべきではないか。）
- 駅前再生ビジョンの将来イメージイラストにもあるように，駅前全面（あるいは大部分）が広場となり，小さな子どもも含めて安心で安全に集える場所にしていく必要があると感じました
- 広場部分のスペースは，どの程度のボリュームがあれば，使いやすいのか，バス路線等の交通量との調節ができるのか。中途半端にならない配置がよいと思う

Q５　本シンポジウムに参加して，印象に残ったことや感じたことは何ですか。（自由記入）

- 活動時に，住民の居場所づくりを意識している点
- 公民連携の活用
- 大東市の公民連携事業「morineki」が，印象的でした
- サイレントマジョリティの方々にどう動いていただくのか
- 公民連携，公の考えと市民ニーズとの差をどう縮めるのか。それぞれを満足させることが必要なことだと気づくことができました
- 今回事例にて伺った大東市や岡崎市とは違った，福山市の特性、地域性、立地etcを生かした再開発になることを望みます
- 民間主体のマネジメントが重要であることや，その先にある関係者の活性化が図られることが重要とのお話が印象に残りました
- 人口，学生数，年齢別構成etcから他の市と比較するのは難しくないか
- 岡崎の例で，それぞれの点がある。とありましたが，福山の点もそれぞれ連携しながら特色を作っていかないとあちこちでいつもマーケットをしていて，イベント/人の取り合いをしている印象があります。駅前だからこその魅力もありつつ，そのあたり調整できるのかなー？とまだイメージがつかめきれず，，駅周辺の店舗との関係性とか，，

6　今後について

本シンポジウムなどにおける市民のみなさまからのご意見やご質問については，今後の福山駅前デザイン会議や福山駅前広場協議会の検討に加えていきます。

今後も引き続き，福山駅前広場デザインシンポジウムのような場を設け，駅前広場の検討の経過を発信するとともに，多くの方々の意見を聴きながら，市民のみなさまが誇りに思える駅前広場を市民のみなさまと一緒に作り上げていきます。

※自由意見は一部抜粋して掲載しています。